日衛誌（Jpn.J.Hyg.）第67巻　第2号　2012年3月

O-029
女性の就労と飲酒習慣:　途中基礎資料

[1]名古屋市立大学　大学院医学研究科　公衆衛生学、[2]国際セントラルクリニック

永谷　照男[1]、近藤　康明[2]、白田　康代[2]、山田由香里[2]

目　的　女性の就労と飲酒習慣の関連を示す。最終目的は女性の就労と家事が生活習慣や健康に与える相互影響の評価。
対象者　「働くことと健康に関する調査研究」(http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kouei.dir/moku%20sinkou.html) で 2011.11.11.までに同意を得た女性 3986名のうち、5条件 (年齢: 28～44歳、現病なし、妊娠なし、休職者除く、調査項目に欠損なし) をみたす 2453名。年齢: mean(SD) = 37.6(4.1) 歳.
就　労　1) 無職／非正規雇用／正規雇用 の 3群、n = 436／688／1329.　2) 就労者 (n = 2017) は一日就労時間と一週就労日数から一週就労時間を算出。就労時間 (h/w): mean(SD) = 38.5(11.2), range = 1.2～98.
飲　酒　1) 無／有 の 2群、n = 1175／1278.　2) 飲酒者は一日飲酒量と一週飲酒日数から一週飲酒量を算出。飲酒者飲酒量(g alcohol/w): mean(SD) = 74.2(95.0), range = 1.3～700.
結　果　非正規は正規に比し就労時間が短く、その mean(SD) は 29.9(12.3) と 42.9(7.4) h/w であった。無職／非正規／正規 で飲酒者の割合は 43.8／51.3／55.2 %、平均飲酒量は 57.8／79.3／76.1 g/w と就労者で率・量とも多かった。非正規、正規とも就労時間と飲酒量に弱い正相関を認めた。
考　察　女性の就労は飲酒者・量を増やすかもしれない。今後、対象者を増やし、配偶者や子の有無、家事分担などを加え、就労や家事が生活習慣や健診成績に与える相互影響を横断・縦断的に把握する。
附　1) この研究は三菱財団、日本健康増進財団、および科学研究費助成事業の助成金と国際セントラルクリニック (名古屋市中村区、理事長 内藤靖夫) の協力で実施している。2) 発表当日は対象者を追加し提示する。